

電動車いす等安全対策・普及推進事業の 目的・概要

経済産業省

商務・サービス政策統括調整官

山本 和徳

1. 電動車いす等安全対策・普及推進事業の実施背景①

事業目的・背景①

- 高齢運転による一連の痛ましい交通事故等を受けて、政府では、「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策(2019年6月18日関係閣僚会議決定)」をまとめ、対策に取り組んでいる。
- シニア層を中心とした交通の安全と生活に必要な移動手段の確保を両立するためには、移動に関する多様な選択肢を用意していくことが重要である。
- 都市や地方が抱える様々な移動課題への対応や、新たなビジネスの創出といった観点からも、多様なモビリティはポテンシャルを有すると考えられるため、「多様なモビリティ普及推進会議」を開催。
- 多様なモビリティを普及・推進するため、安全性・社会的受容性の向上などについて検討を実施。

<多様なモビリティ(例)>



小型電動モビリティ



電動アシスト自転車



電動車いす

1. 電動車いす等安全対策・普及推進事業の実施背景②

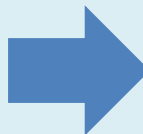
事業目的・背景②

- 電動車いすについては、高齢者が日常的に利用することが自然であるとの認識が薄い状況にあり、社会における理解の増進や受容性の向上が、普及に向けた課題となっている。
- 本事業では、様々な地域環境における実証事業や、商業・観光施設における調査等を通じ電動車いすの利用が高齢者に与える効果や、地域等で活用する上での課題を把握するとともに電動車いすの社会受容性を高めるべく、安全で魅力的な活用方法について集中的に発信する。

<電動車いすの特徴>



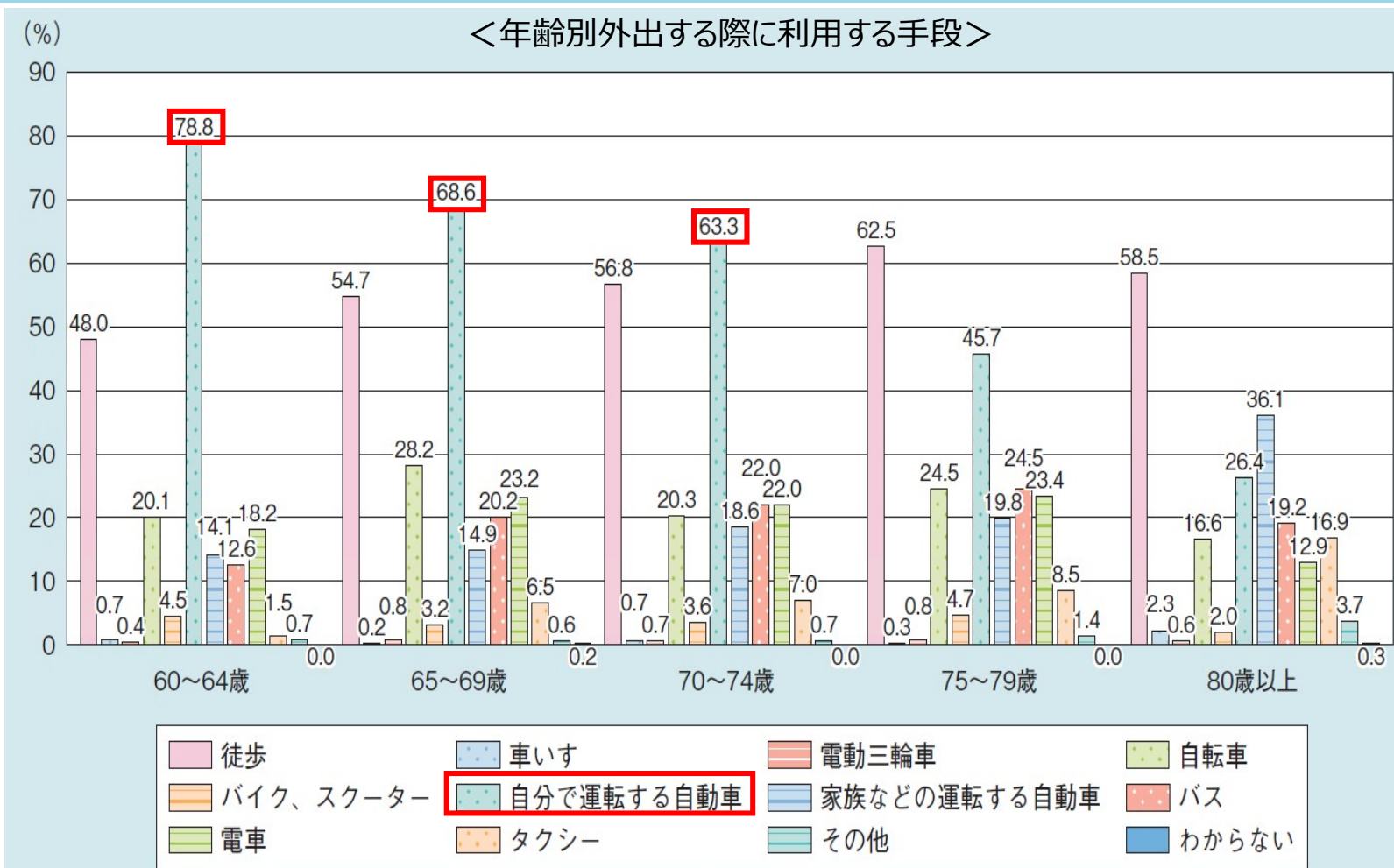
- 交通ルールは歩行者と同じ
- 歩道、横断歩道を通行する
- 歩道の無い道路では右側通行
- 歩行車用信号に従う
- 最高速度6km/h以下



電動車いすは歩行者扱い

2. 多様なモビリティが求められる現状（高齢化への対応）

- 高齢者の外出手段を年齢別に見ると、74歳までは「自分で運転する自動車」の割合が最も高い。
- シニア層を中心とした交通の安全と生活に必要な移動手段の確保を両立するためには、**移動に関する多様な選択肢を用意していくことが重要**。

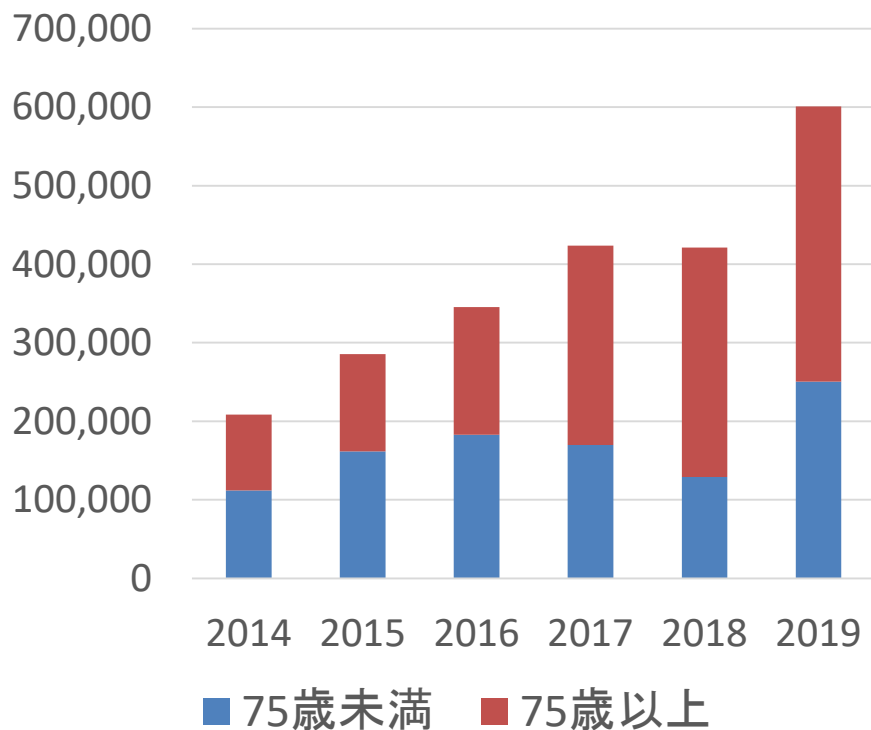


(資料) 内閣府「高齢社会白書」(令和元年)より

2. 多様なモビリティが求められる現状（高齢化への対応）

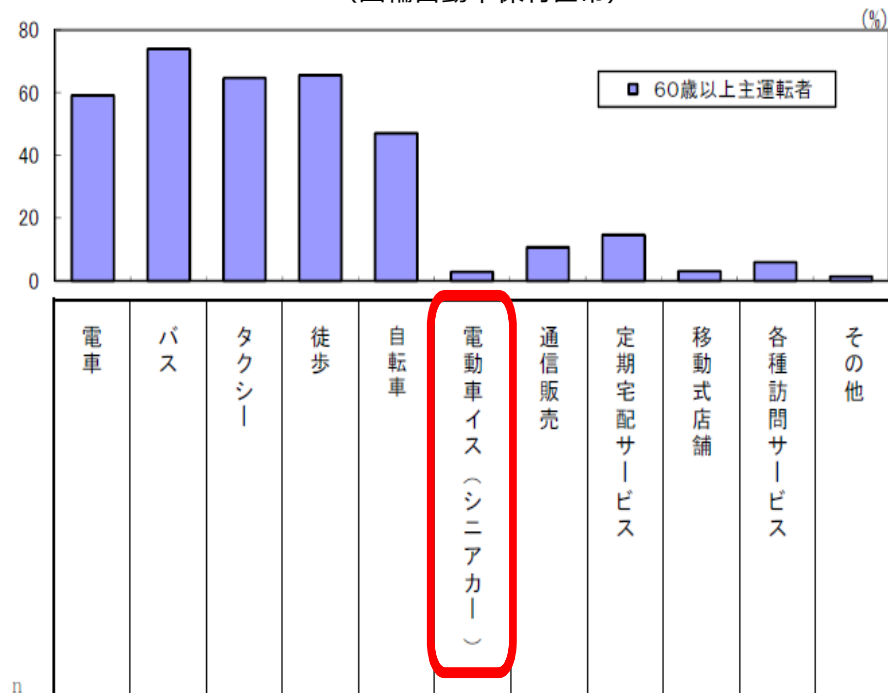
- 高齢者（65才以上）の免許の自主返納は、2018年から2019年にかけて約20万人増加。
- 免許返納後の移動手段として、公共交通機関や徒歩・自転車を選択する割合が高く、電動車いすを選択する割合は極めて低い。

(人) 運転免許の申請取消(自主返納)件数



(資料) 警察庁「運転免許統計」より

返納後の移動手段やサービス利用
(四輪自動車保有世帯)



(資料) 一般社団法人日本自動車工業会「乗用車市場動向調査」(2018年3月)より

3. 電動車いす等安全対策・普及推進事業の概要

事業概要全体像

1. 電動車いす等の様々な地域環境における実証
2. 電動車いすを用いた新たなサービスの検討
3. 広報活動を通じた、電動車いすの魅力的な活用・安全な利用の周知



認知度・社会受容性の向上

利用可能性の拡大

安全な活用方法の普及

を目指す。

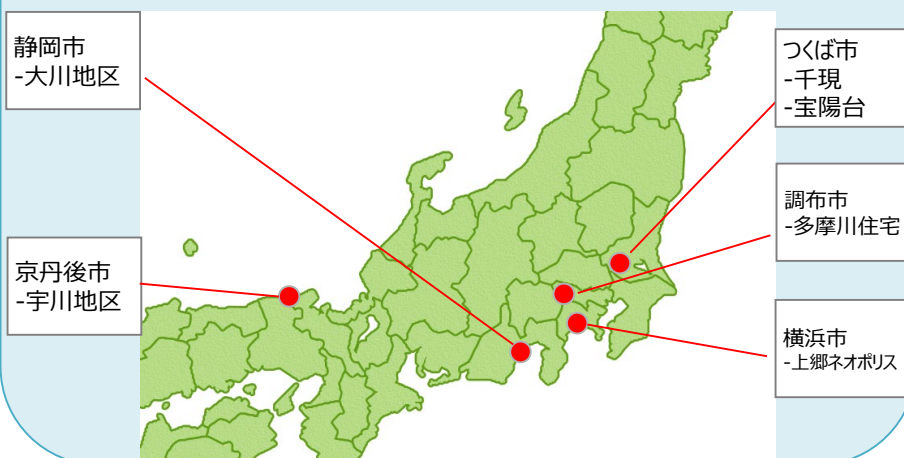
4. 具体的な事業内容（実証事業・広報活動）

- 2020年10月21日に実施した、「のろーよ！デンドー車いすプロジェクト発表会」をはじめ、全国5地域における電動車いすの導入実証や、観光・商業施設における電動車いす導入の検証を行った。

■ 広報活動



■ 地域実証【全国5地域】



■ 施設実証・調査（4施設）

- ・観光・商業施設における検証
—ハウステンボス、ビオスの丘、日航アリビラ、等
- ・病院における検証
—国立循環器病研究センター

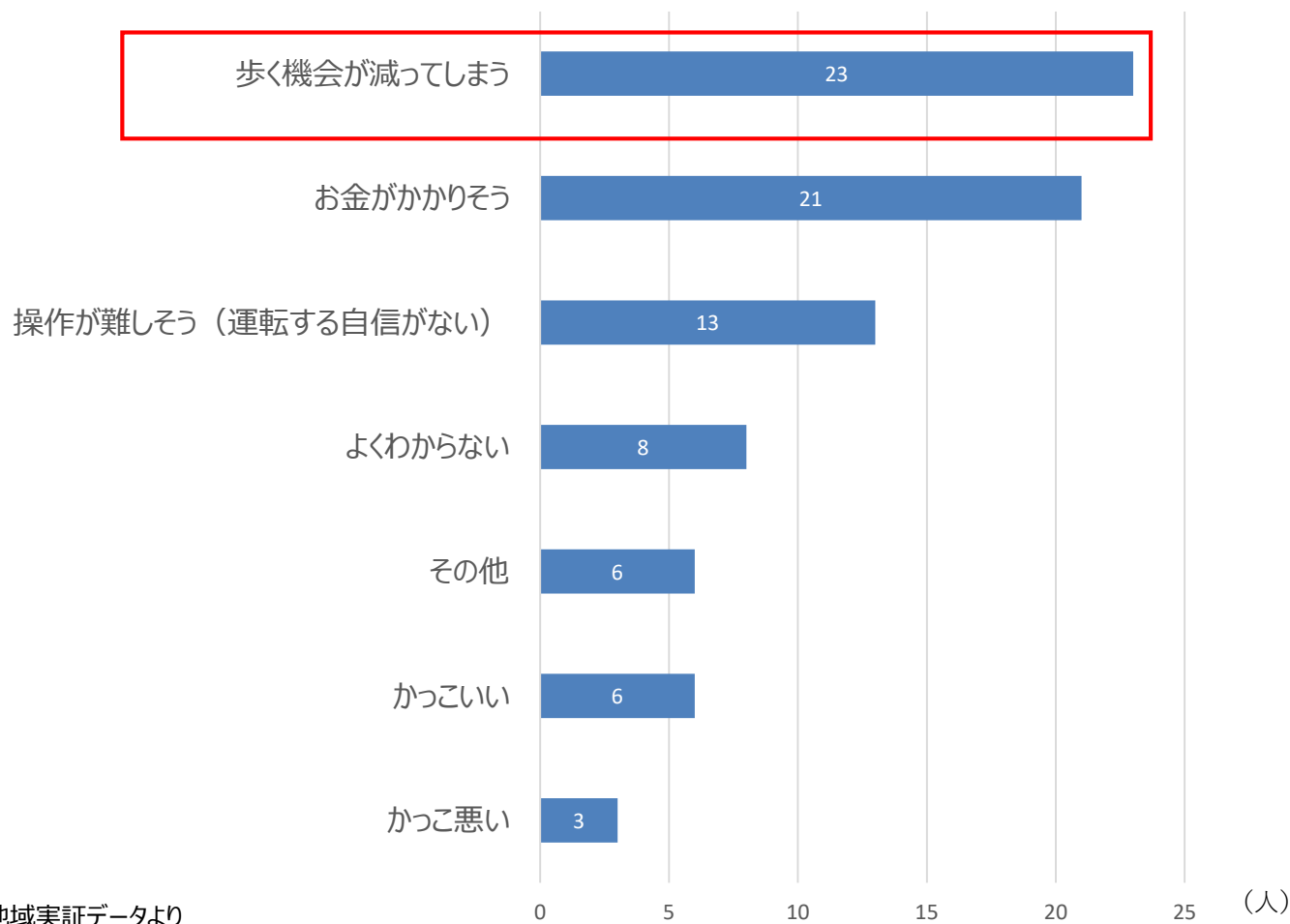
5. 実証結果から見えてきたもの

- 実証前アンケートにて、電動車いすに対するイメージで「歩く機会が減ってしまう」と回答した人が最も多かった。

実証前

電動車いすに対してどんなイメージをお持ちでしたか？（複数回答可）

n=55

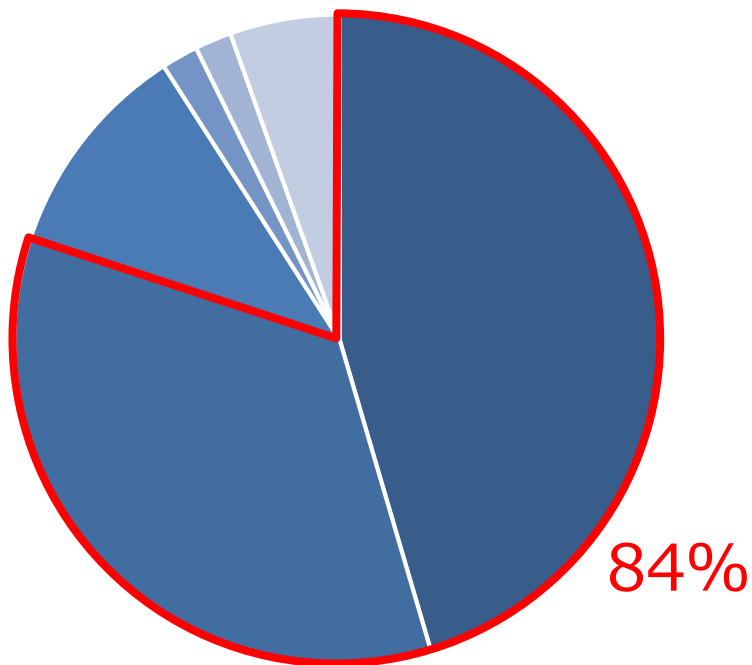


5. 実証結果から見てきたもの

- 実証後アンケートでは、電動車いすを利用することで「自分で外出できる自身が持てる」「坂道や荷物のある場合も負担なく移動できる」と回答された方が8割を超え、電動車いすの価値を実感されたことが分かる。

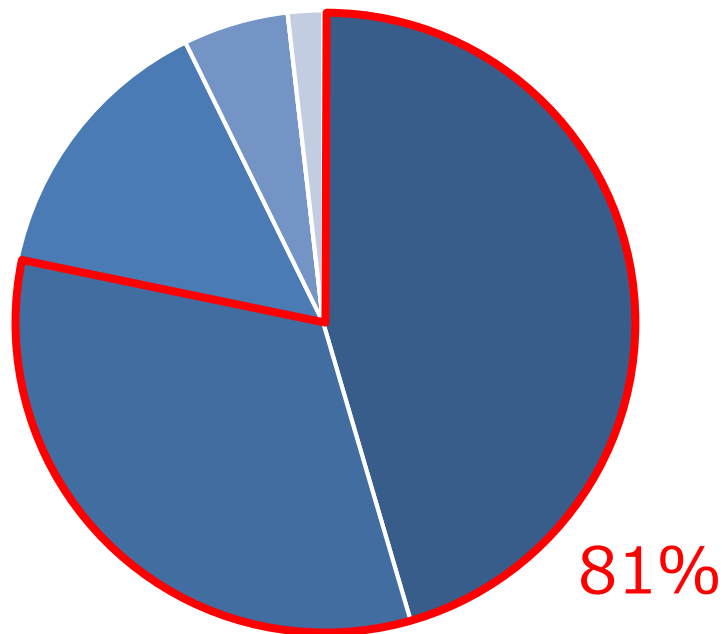
実証後

自分で好きな時に外出できるという自信が
持てる



- 1. とても役に立つ
- 2. まあまあ役に立つ
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり役に立たない
- 5. 全く役に立たない
- 6. 無回答

坂道が多い場所や荷物がある場合でも負担
なく移動できるようになる



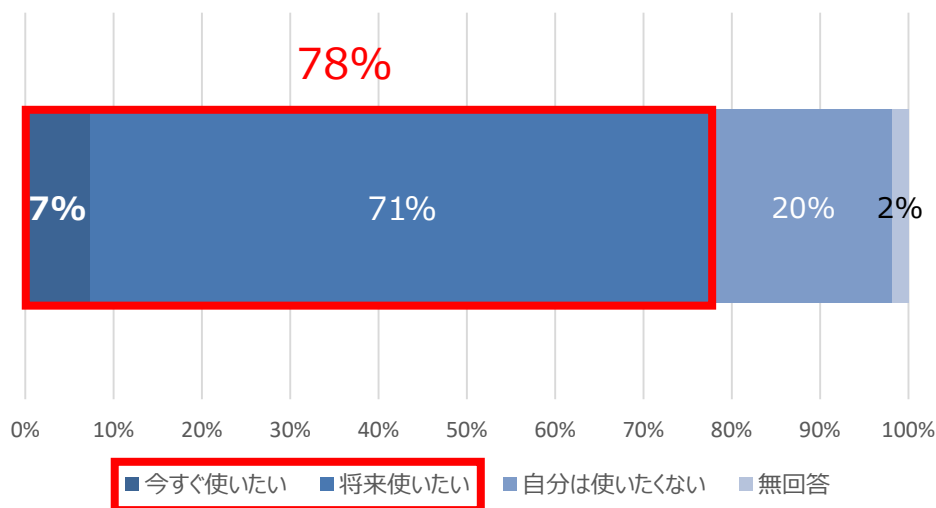
- 1. とても役に立つ
- 2. まあまあ役に立つ
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり役に立たない
- 5. 全く役に立たない
- 6. 無回答

5. 実証結果から見えてきたもの

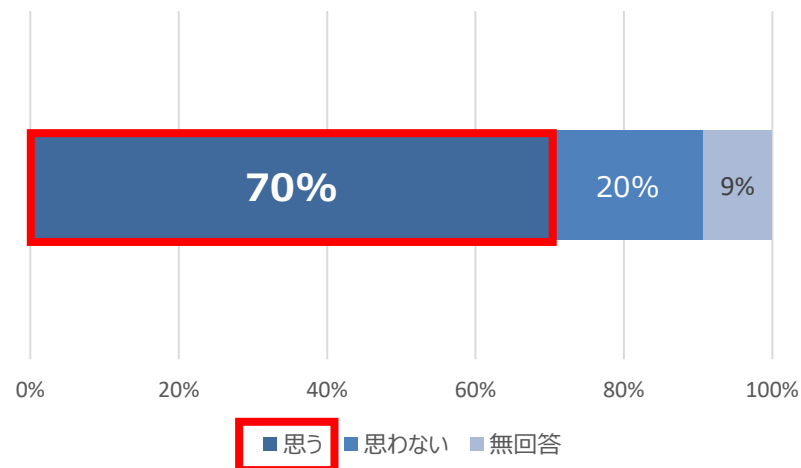
- また、実証後アンケートでは電動車いすの**使用意向などについても、多くの方から肯定意見**が得られた。

実証後

ご自分で電動車いすを使いたいですか？



電動車いすを家族や知り合いに勧めたいと思いますか？



電動車いすの利活用は拡大できる

電動車いす等安全対策・普及推進事業 を踏まえて

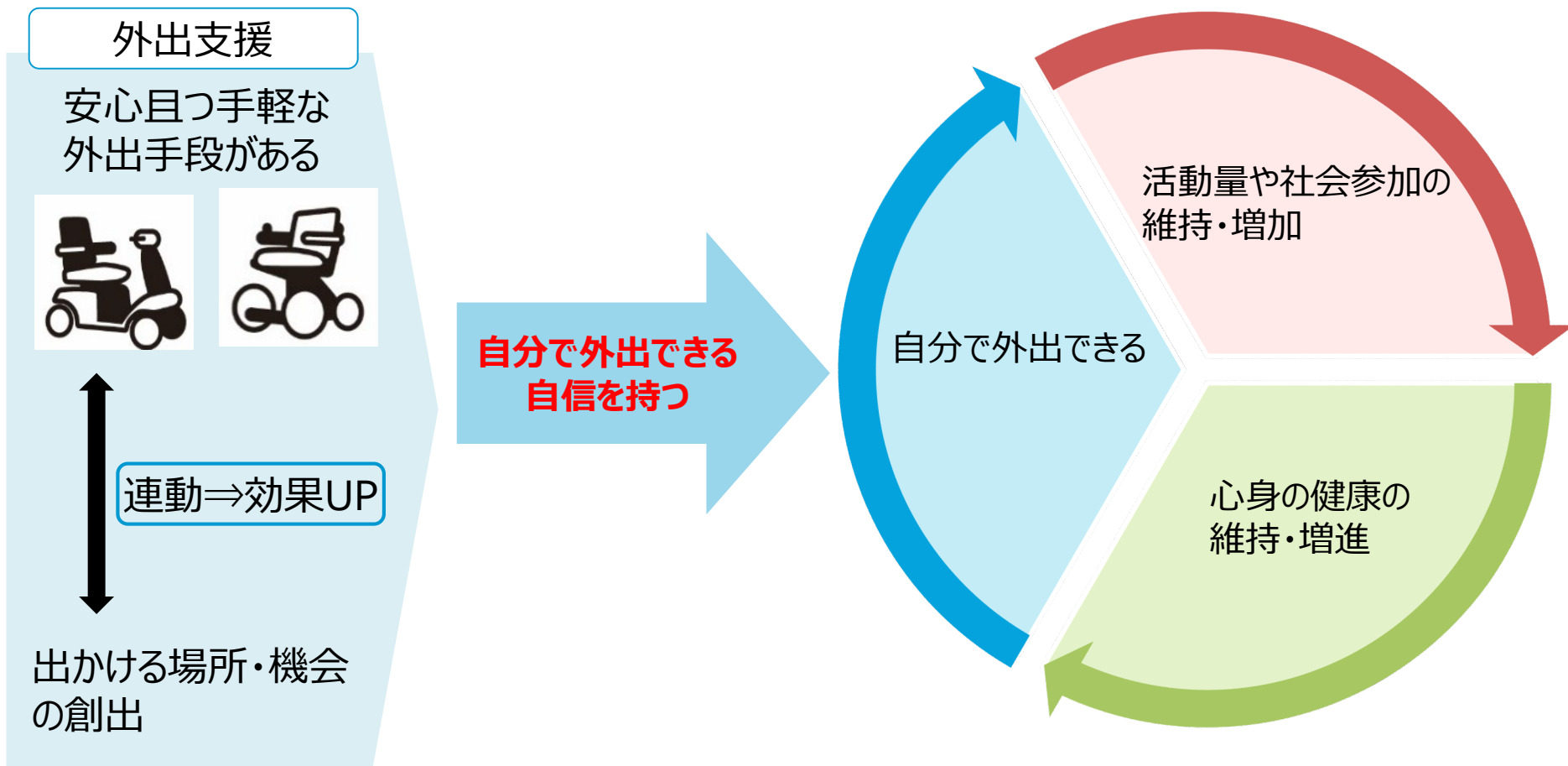
経済産業省 商務・サービスグループ

医療・福祉機器産業室長

廣瀬 大也

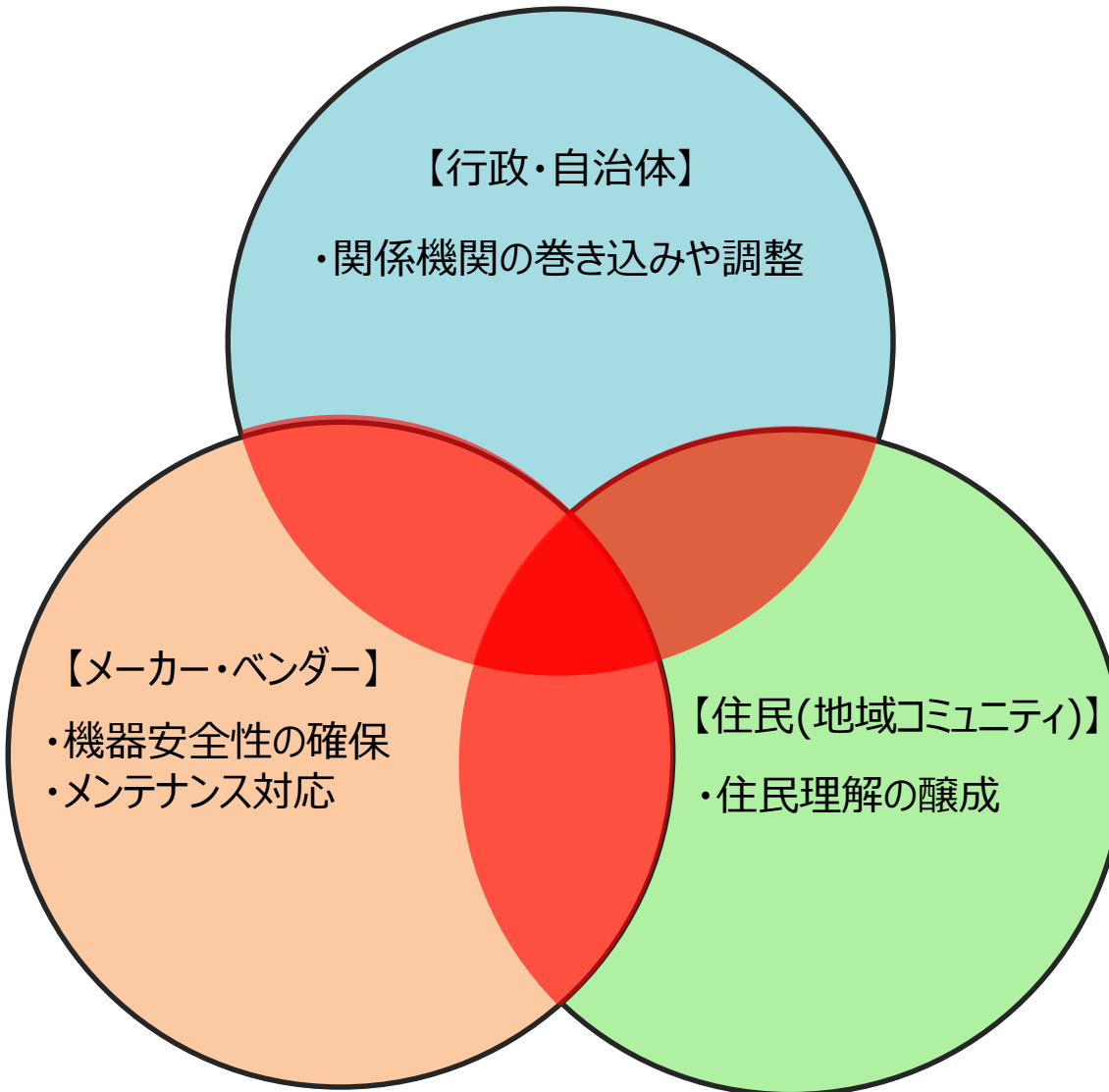
1. 実証を踏まえて（地域における実証）

- 電動車いすの利活用が、高齢者の移動・活動の促進に一定の効果を与えることが明らかとなった
- 本実証の結果を踏まえると、電動車いすを利活用した外出支援を起点として、高齢者の生活における好循環を生み出すことができるのではないか



1. 実証を踏まえて（地域における実証）

- 電動車いすの利活用による好循環を生み出すには「連携」が重要



重なり（赤部分）：
連携して取り組む領域

- ① ニーズ顕在化層と電動車いすのマッチング
- ② 具体的な利活用方法の提示
- ③ 電動車いすを体験する機会の付与
- ④ 高齢者が外出する仕掛けづくり
- ⑤ 電動車いすの安全性確保、走行ルール、走行環境の整備

1. 実証を踏まえて（施設における実証）

- 安全・安心の確保が円滑に進むことで、施設における利活用の在り方も更に多様になるのではないか

- 施設において初めて電動車いすを導入する際は、スタッフ等が電動車いすに実際に乗り、危険・注意箇所の確認を行い、マップ上で危険・注意箇所等を整理することが、安全・安心の確保に向けた第1歩。
- 施設利用客の中には、電動車いすへの潜在的なニーズがある可能性。サービスの広報等により、それら潜在的なニーズを掘り起こすことができるのではないか。
- 電動車いすにより、移動の負担等が減ることで、施設体験の充実にも繋がる可能性が示唆された。単なる移動支援の乗り物としてだけでなく、利用客の満足度を向上させるモビリティとしての利活用も可能ではないか。

2. 直近の事例

- 電動車いすの利活用の拡大は徐々に広がりつつある
- 様々な活用事例が生まれることで、それぞれの環境に適した電動車いすの利活用の形が広がっていくのではないかと

【熊本県高森町の事例】運転免許証を返納した町民に対して、町が電動車いすを貸し出し



＜概要＞

外出機会が減った方の支援、運転免許証の返納推進が目的。
貸出を行う団体に対し、高森町警察・交通安全協会が主となり
電動車いすの安全運転講習会も実施予定。

【奈良県の事例】奈良公園内の周遊性向上に電動車いす等を活用

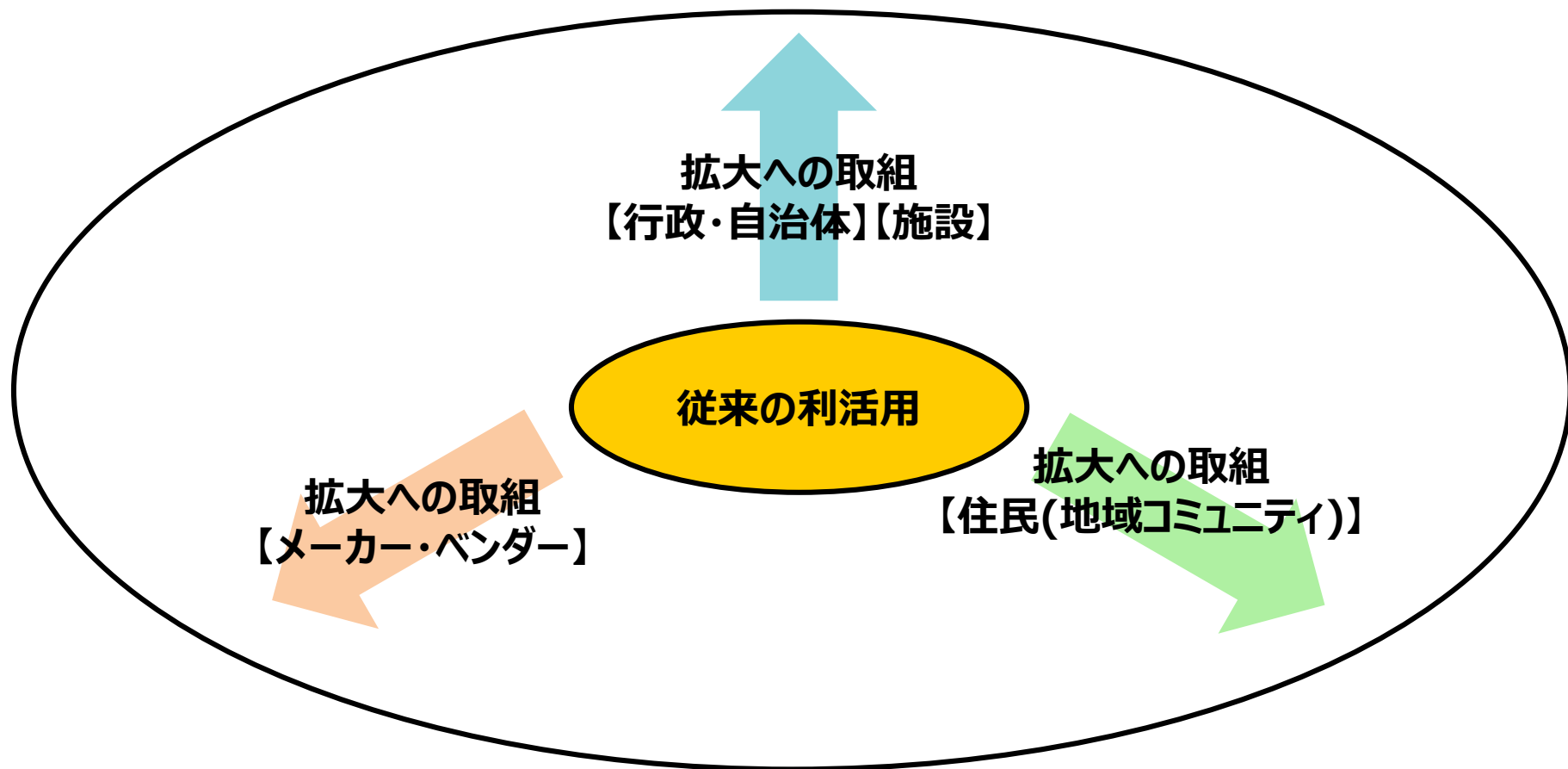


＜概要＞

敷地の広大さや、駅やバス停等からの徒歩以外の交通手段の無さによる、「行きたくても行けない状況」の解決が目的。

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて

- 電動車いすの利活用の拡大によって、車からの乗り換えによる自動車事故の減少や、高齢者の活動・健康の増進につながることを期待
- 特に、コロナ禍とも呼ばれる昨今の状況においては、今回の実証で明らかとなった、電動車いすが持つ価値・効果はより大きなものになり得るのではないか



3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（行政・自治体への期待）

- 電動車いすの利活用の拡大に向け、行政・自治体や施設、メーカー・ベンダーが率先して取り組み、連携を深めていくことが重要ではないか

政策の視点

【地域の交通安全】

- ◆ 地域高齢者の運転免許返納

【高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり】

- ◆ 高齢者の外出促進・健康維持
- ◆ コミュニティの形成

必要となる取組

【地域の交通安全】

- ◆ インフラ面への対応
 - － 路面・駐車スペース等
- ◆ マップの作成

【高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり】

- ◆ 介護保険以外での利活用促進

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（施設側への期待）

- 電動車いすの利活用の拡大に向け、行政・自治体や施設、メーカー・ベンダーが率先して取り組み、連携を深めていくことが重要ではないか

導入のメリット

【新たなサービスとして】

- ◆ 潜在ニーズの掘り起こし
- ◆ 魅力度や満足度の向上
⇒ 利用客の消費行動の変化や、更なる顧客の獲得等につながる可能性

必要となる取組

【サービスの周知】

- ◆ 「利用可能」「利用歓迎」の広報
- ◆ 「のろーよ！デンドー車いす」ポスターやステッカーの活用

【安全・安心の確保】

- ◆ インフラ面への対応
 - － 路面・駐車スペース等の整備
- ◆ マップの作成

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（メーカー・ベンダーへの期待）

- 電動車いすの利活用の拡大に向け、行政・自治体や施設、メーカー・ベンダーが率先して取り組み、連携を深めていくことが重要ではないか

導入増への取組

【利活用拡大に向けた体制整備】

- ◆ 多様な利活用主体への提供
- ◆ 利活用者への情報の提供
 - － 入手方法、保険等

必要となる取組

【安全・安心の確保】

- ◆ 安全な活用方法の発信
- ◆ 利用講習会等への協力

【選択肢の創出】

- ◆ 更なる開発
 - － 多様な機能/デザイン性

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（安全・安心の確保）

- 利活用の拡大と同時に、電動車いすに関する安全・安心の確保も極めて重要
- 関係者が連携し、ハードとソフトの両面から対応も行うことが必要

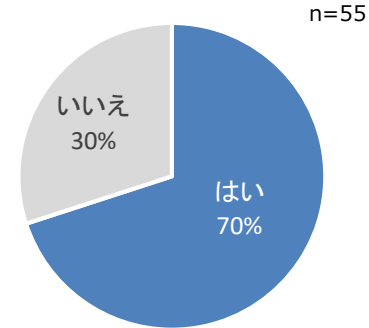
・電動車いすの操作等に関する点

実証における事例や、実証参加者の声より明らかとなった、操作性や安定性等に関する課題



・走行環境（道路等）に関する点

電動車いすを利用するうえで「道が整備されていない（狭い、段差等）」が課題と感じた人の割合



地域実証データより

・必要となる対応

【メーカー・ベンダー】

- 安全な活用方法の発信、情報提供
- 更なる開発
 - － 多様な機能/デザイン性

連携

【行政・自治体・施設】

- インフラ面への対応
 - － 路面、駐車スペースの整備
- マップの作成
- 安全利用に向けた講習会の開催

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（認識の変化）

- 電動車いすに触れたからこそ、高齢者に「変化」が現れた

移動の在り方
の変化



免許返納後は（畑までの）移動は徒歩だったが、荷物運搬のためにリアカーを引いたり、知り合いにお願いしたりしていた。
（電動車いすを使うことで）**自分ひとりで荷物を運べるのは便利だし、とても楽になった。**

外出に対する
気持ちの変化



イベントへの参加が楽しくて毎日電動車いすに乗って出かけた。
外に出るのが億劫になっていたけど、おかげさまで**よく外出できるようになってとても嬉しい。**

家族からの働き
かけによる変化



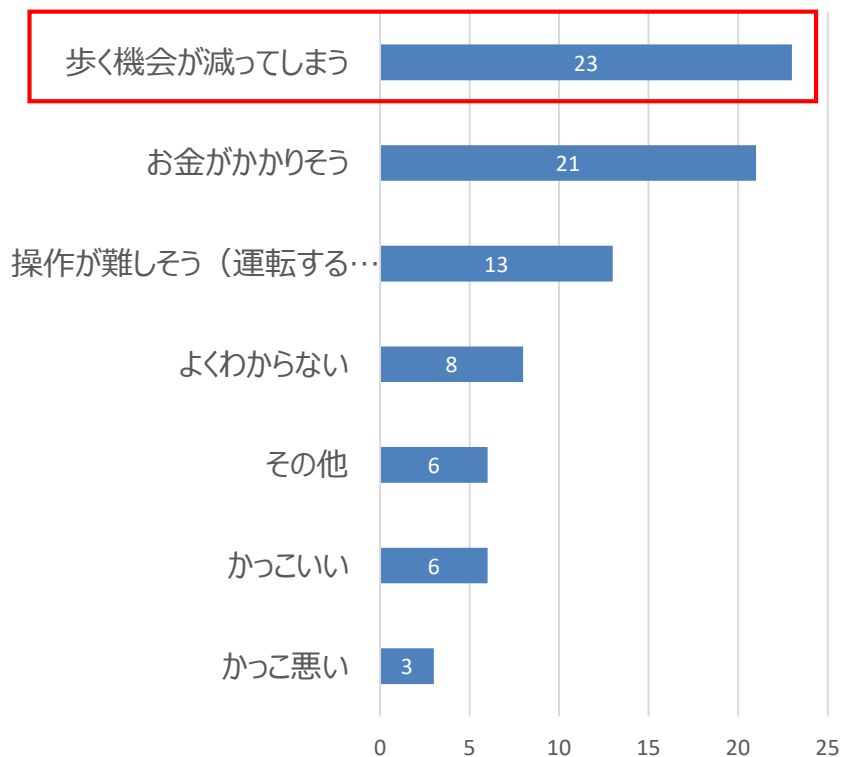
高齢者による自動車事故が増加や、父の脚が悪くなっていることもあり、**「80歳まで運転する」と言っていた運転好きの父**に免許返納を薦めたところ喧嘩に。
結果、免許返納をすることになったが、その際電動車いすもプレゼント。
父は「電動車いすがあって本当によかった」と言っている。

3. 電動車いすの利活用の拡大に向けて（認識の変化）

- 今回の実証結果において見られた「変化」にこそ、利活用の拡大の「効果」が現れている

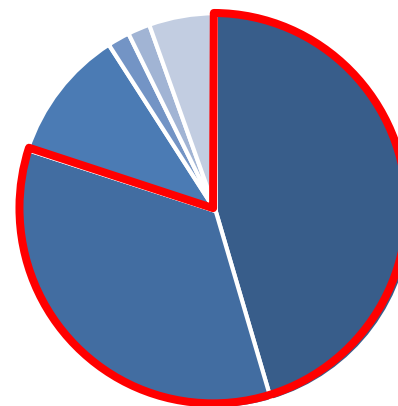
実証前

電動車いすに対してどんなイメージをお持ちでしたか？（複数回答可）
n=55



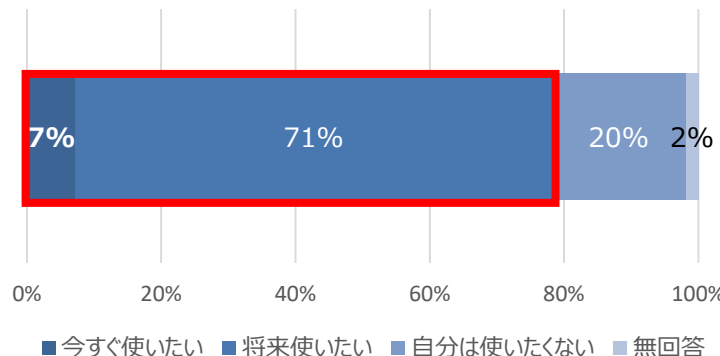
実証後

自分で好きな時に外出できるという自信が持てる



- 1.とても役に立つ
- 2.まあまあ役に立つ
- 3.どちらともいえない
- 4.あまり役に立たない
- 5.全く役に立たない
- 6.無回答

ご自分で電動車いすを使いたいですか？



4. おわりに

元気だから、
出かけられるんじゃない。



出かけるから、
元気でいられるんだ。

(参考) 電動車いす等安全対策・普及推進事業 窓口

参加企業一覧

窓口

「のろーよ！デンドー車いす」で検索
<https://dendo.go.jp/#specialMovie>

<電動車いす普及安全協会>
メール：info@den-ankyo.org

<各企業窓口>

・(株)今仙技術研究所
→当日資料にて記載

・(株)WHILL
WHILLコンタクトデスク
電話：0120-062-416
メール：jp.info@whill.inc

・(株)川嶋
→当日資料にて記載

・スズキ(株)
スズキ(株)お客様相談室
電話番号：0120-402-253
受付時間：9:00-12:00、13:00-17:00

・(株)東洋製作所
→当日資料にて記載

・福伸電機(株)
→当日資料にて記載

・ヤマハ発動機(株)
→当日資料にて記載

